

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」(志摩市)概要

- 1 対話市町 志摩市(志摩市長 ^{はしづめ} 橋爪 ^{まさよし} 政吉)
- 2 対話日時 令和5年6月29日(木)13時30分から14時25分
- 3 対話場所 安乗岬園地 休憩舎(志摩市阿児町安乗794-1)
- 4 視察場所 安乗埼灯台
- 5 対話項目
 - (1) G7三重・伊勢志摩交通大臣会合後の観光地づくりについて
 - (2) 津波避難対策の促進について

6 対話概要

対話項目(1) G7三重・伊勢志摩交通大臣会合後の観光地づくりについて

(市長)

G7三重・伊勢志摩交通大臣会合での議論は、今まさに人口減少下に置かれている日本の各地方において、持続可能な形で観光産業を含む様々な分野が、誰もが公平で安全かつ円滑に移動・輸送できる環境が求められているという内容でした。志摩市にもフィットする、取り組むべき内容であったと思います。この交通大臣会合の経験を活かしてインバウンド、MICE誘致に力を入れていくことが志摩市の基幹産業である観光業の推進につながると思います。

課題として挙げられるのが、点在する観光資源をつなぐバスやタクシーの確保、昨今ドライバーの減少や働き方改革で仕事のあり方が変わりつつあることから、非常に厳しい状況にあることです。そこで、主要な空港から空を移動して志摩市に来ることができる拠点も今後必要になってくるため、アクセスの手段を技術革新の視点を踏まえて確保していく必要があると感じています。

また、知事もご存知のとおり、高付加価値の旅行者をいかに伊勢志摩エリアに呼び込み、周遊していただくことでいかに滞在時間を伸ばせるかが今後の大きな課題になってくると思います。近隣市町と連携してやっていくことも必要だと考えています。

このような状況の中で、観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」において、全国11のモデル地区に選定され、今後、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町を含むエリアで、市町が連携して様々な取組も進めていきます。このエリアは日本を代表する観光地であると自負していますので、旅行者のニーズに合った宿泊施設や滞在価値を創出していく必要があると感じています。

これからも、県の様々な支援をいただき、情報交換をさせていただきながら、基礎自治体でやれることをしっかり取り組み、G7三重・伊勢志摩交通大臣会合後の観光振興につなげていきたいと思っています。

(知事)

観光は、まず、いろいろ働きかけていくことが大事で、知事になってから観光の予算を倍増し、特に大都市からの誘客に向けて、東京に、SNSだけでなく、伊勢市さんや志摩市さんのようにアナログの宣伝を三重県全体として出しました。これからも続けていかなければならないと思っていますし、SNSも強化していかなければなりません。

三重県の観光の特色は、中京圏、関西圏からの観光客が多く占めていますが、近いために日帰りか1泊で、平均宿泊日数は全国46位、こんなに素晴らしい観光地なのに残念な結果に終わっています。大事なのは宣伝することと、連携することです。伊勢市と鳥羽市と志摩市は非常にいい関係でやってもらってますので、これからもぜひ続けていただきたいと思っています。

連携で、観光地を巡る時のポイントは交通です。だんだんこれからは個人で動くようになるので、公共的ララストワンマイル交通が重要となってくるので、しっかりと作っていかなければなりません。

交通の話は、三重県にとっても、志摩市にとっても課題ですが、観光で大事なものであると同時に、地域に住むお年寄り、学生が移動するには交通がしっかりしていないと困ります。交通に関して、今までいろんな実験をしていますが、本当に皆に使ってもらえるようなことをやっているかということそうではない。県では、今年度から一つの課を分けて地域交通を専門に担う課を作りました。そこで何ができるか、これからしっかり考えていくことでいずれ観光にも役に立つと思っています。

もう一つ、人口減少は大きな課題です。県は5月26日に人口減少対策方針(最終案)を出し、皆様のご意見をいただきながら良いものにしていきたいと思っていますが、交通は実は人口減少の大きな課題です。若い人が県外に出て、戻ってくる人もいますが、戻ってこない人の方が多いです。この前高校生と話したところ、「交通がない」と言っていました。鉄道を新しく引くのは大変なので、バスをどう維持するのか、あるいはバス路線をどのように増やしていくのか、大きなバスは無理としても小さなバスをどのように使うのか、乗合タクシーをどう使うのか、そんなことを考えていかなければなりません。

後は、滞在価値を高めることが重要ですので、「自然」「食」はものすごく良いものがある、そこはG7三重・伊勢志摩交通大臣会合において、大きく前へ出せたと思っています。もう一つ大事なのは宿泊場所だと思います。志摩市はものすごく良い宿泊場所・ホテルがたくさんあり、今回、宿泊だけでなく、国際会議を開催できることが証明されました。どんどん国際会議を誘致することを考えていければと思っています。

観光にはいろんな要素があり、交通も大事な要素の一つですが、県だけで取り組める問題ではありません。志摩市さんが住民の方々とお話をすると仰っておられたので、県担当課には同席して話を聞いてくるように指示しましたので、ご一緒させていただけたらと思います。こういった取組をしながら、住民にとって良い交通網を作っていかなければならないと考えています。県南部にとっては、観光がとても

大事な産業であるため、もっと育てていかなければならないと思います。

(市長)

これまで、市民の方々の交通ニーズについて膝を突き合わせて議論させていただく機会がなかったという気がします。これからは新しいデジタル技術であるとか、様々な技術で住民ニーズを的確にとらえた公共交通のあり方を作り上げていくことが大変重要と思っています。

令和5年度において、志摩市では、旧志摩町地区と旧大王町地区の2か所で、デジタル技術を活用した地域交通を構築していくために、地元のタクシー事業者と共同して取り組むこととなっておりますので、地域交通の確保に向けた第一歩として取り組んでいきたいと思っています。

観光の面では、知事が仰られた、いかに長く滞在いただくかということが課題になると思います。伊勢市、鳥羽市、南伊勢町、志摩市、この3市1町、それぞれ持ち味が違いますので、お互いの魅力を持ち寄って、1日でも長く滞在していただきたい。例えば、南伊勢町で言えば宿泊施設は少ないかもしれませんが、豊富な食材があって、その食材を志摩市の宿泊施設へ提供いただいで食べていただく。鳥羽市には鳥羽市にしかない観光のあり方、伊勢市には伊勢市にしかない歴史・文化があり、これを持ち寄って、うまく面でお客様をとらえて、1日でも長く滞在いただきたいと思っています。

(知事)

先ほど伊勢市と鳥羽市の話しかしていませんでしたが、南伊勢町には、日本で一番おいしい魚が取れる外湾漁協があり、漁獲量も一番多い漁協ですので、連携していただくといいと思います。観光は、宿泊先と観光の名所と食があって成り立つものですから。

地域の輸送というのは課題が多いところで、ニーズが掴みにくい。ボランティア輸送に切り替えていきましょうというのがありますけど、「人に運んでもらうのは悪いわ」と言う地元の人が多いです。そこをどのようにシステムで変えていくかを考えていかなければならないと思います。G7三重・伊勢志摩交通大臣会合後に、多気のヴィソンで自動運転の実験を見学しました。茨城県境町では、自動運転で町の中をかなりの車が走っています。そういうものを見ていって、小さな市や町であれば応用できるのではないかと思いますので、そういったことを三重県でも一緒にしたいと思っています。

また、知事に就任して約1年半経ちますが、今年の3月、4月に観光、カーボンニュートラル、それから人口減少対策もそうですし、交通はまだこれからですが、方針・計画を作ってきました。今後これを実行に移していきたいと考えています。

対話項目（２）津波避難対策の促進について

（市長）

現状、志摩市においては、線状降水帯等で日々の災害はありますが、大きな災害はないと認識しています。

近い将来、発生が危惧されている南海トラフ地震に関して、志摩市における被害想定は、人口のおよそ２割に当たる 8,700 人の人的被害が出ると言われています。最悪のケースですが、津波高 1 メートルが来るところが、最短 6 分で到達します。また、最大の津波高は 26 メートルと言われています。津波避難対象地域は、市の面積の約 15%、人口の約 30% が避難対象になると言われており、避難所の確保が厳しい状況になっています。

津波避難対策地域内で、特定避難困難地域に約 2,000 人が住んでおり、逃げ遅れゼロということを目指して、しっかりとハード・ソフトとも対策に取り組んでいきたいと思えます。

ソフトでは、例えば避難訓練、学校での避難袋の作成というのは、常にやらせていただいています。例えば、先日、熊本市の職員を講師に招いて、「災害を経験したからこそ感じる災害対策」ということをテーマに防災講話をしていただきました。その中では、目からうろこのお話もたくさんあり、そもそも B C P 計画は、本当に災害が起きて使えるのかという部分も含めて、改めて検証すべきではないかという話を伺いました。

また、ハードの関係では、津波避難タワーの整備にスピード感を持って計画的に取り組んでいます。令和 4 年度は、志摩町和具地区に 1 か所、大王町畔名地区に 1 か所、合計 2 か所の津波避難タワーを整備させていただきました。令和 5 年度も引き続き、市政運営の重点項目として、防災減災対策の加速を掲げまして、阿児町国府地区に 3 か所、甲賀北地区に 1 か所の津波避難タワーの整備及び調査を検討しています。

今回、津波避難タワーの整備事業においては、三重県の地域減災力強化推進補助金の申請をさせていただいております。今後、計 10 基の津波避難タワーの整備についてスピード感を持って計画的に進めていきたいと思えます。

また、なかなか避難所の収容人員が足りていない状況もありますので、県有施設も活用しながら、ヒント等をいただきたいと思います。

（知事）

私の経験で申し上げますと、災害対応は経験が全てです。

三重県は台風とか豪雨が来る場所ですが、昭和 34 年の伊勢湾台風以来、大きな災害に見舞われていません。平成 23 年には、三重県南部で大豪雨がありました。その時お亡くなりになられた方、行方不明になられた方が県内で 3 名おられます。

そのような災害はありましたけれども、県内全域あるいは県内ほとんどの地域で大きな災害には見舞われたことがありません。従って、災害の経験がないので、ど

うしていいのかわからないというのが実感だと思います。

災害対応は、「治にいて乱を忘れず」ということではないかと思います。私は、国土交通省鉄道局で事故対応をさせていただいたり、海上保安庁の時も大きな災害に対応させていただいたりしました。そういう経験がないとなかなかわからない。

先日看護学校の生徒を対象に、災害現場への救援に行くと様々な経験ができる話をしたところです。今は、DMATもありますし、ボランティアの救援活動があります。自治体の方も率先して人を送り込んでいただくと経験も返ってきますので、その経験値を自治体で共有できると思います。

津波対策で、平成 27 年ぐらいに、国が津波避難タワーを作ってくれとだいぶ補助してくれた時に、三重県はお金がなくてできなかった。そのため、県では、今年度から補助制度を作らせていただきました。その時に手を挙げていただいたのが志摩市さん。ある程度は国からお金が出て、その残りのお金を市と県で折半して、避難タワーを整備していきます。

(市長)

整備した津波避難タワーのことを現状報告させていただくと、令和 4 年度に整備した 2 基の津波避難タワーの地区の方々には、津波避難タワーが遠くのものではなく、有事の際にはスピード感を持って円滑に使用できないとためなので、まずは身近なものに感じていただきたいということで、日常使用をして欲しいとお願いしています。

畔名地区では、自治会主催の避難訓練を実施して、65 名が参加しました。また、和具地区では、夜間の避難訓練を実施し、150 名ほどの方が参加し、近くの小学校の子どもたち 72 名も避難訓練に参加したということです。

これから避難訓練をたくさん実施していただきたいと考えていますが、畔名地区については、例えば買い物支援の移動販売車が津波避難タワーのところで販売するなど、地域の方々の生活により近い場所に津波避難タワーがあります。

今後、正確に恐れて、正確に知識を得るということをやっていくことが大変重要と思っており、しっかりと取り組んでいきますので、引き続き、今後の避難タワーの整備についても、県においてもご理解をよろしくお願いいたします。

(知事)

仰るとおり、災害は、正しく恐れるのが大事であり、いたずらに恐れてもしょうがない。それから、災害に使うものを普段から使っておくことも大事です。買い物の移動販売車が避難タワーに行くのは非常に良いアイデアだと思います。

自分の経験での話ですが、災害が起こるのは大体休みの日か夜間です。確率で言うと、働いている時間より休日や夜間の方が長いので、夜間訓練はすごく大事だと思います。夜間に避難できたら昼間も当然できるので、ぜひやっていただきたい。県も協力させていただきたいと思います。